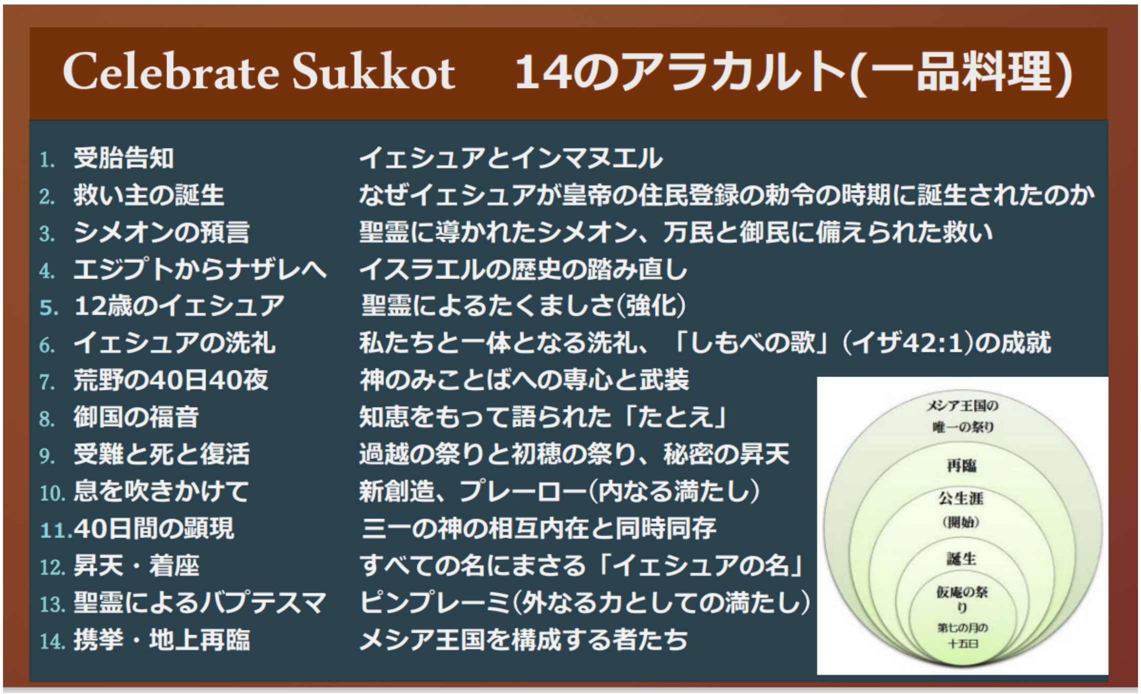
# 「14」のアラカルト

## ベレーシート

●下図の「14 のアラカルト」は 14 からなる一品料理のメニューで、今年(2022 年)の「セレブレイト・スッコート」に参加された方々に提供しました。「14」(4+6+4)という数は「ダビデ」(דָּוִד)のゲマトリアです。ダビデはメシアの「型」です。マタイはその福音書 1 章の系図の中で、ダビデの子である「**イエシュア**」を証ししています。




●神である主は、大地(「ハーアダーマー」הָאֲדָמָה)のちりで形造った人(「アーダーム」אָדָם)を、エデンの園に置かれました。そのとき、神である主は人に対して何と言われたでしょうか。

【新改訳 2017】創世記 2 章 16 節

神である【主】は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」

●「思いのまま食べてよい」と訳された「アーホール・トーヘール」(אָכֹל תֹּאכֵל)は「不定詞+未完了形」の強調表現となっており、同じ用法「あなたは必ず死ぬ」でも使われています。ですから、「あなたは園のすべての木から必ず食べなさい」と訳すこともできるのです。このように聖書は、最初から「食べること」を強調しています。上記の 14 の一品料理の中から選んで好きなものを食べなさいというのではなく、14 からなる一品料理のすべてを必ず食べるなら、イエシュアによる贖いの大いなる祝福に与ることになるのです。その祝福とは「耕し、守る」という「王なる祭司」の永遠の務めを、地における神の代理者としてなすことになるからです。そして、これこそが「御子のかたちと似姿」そのものなのです。

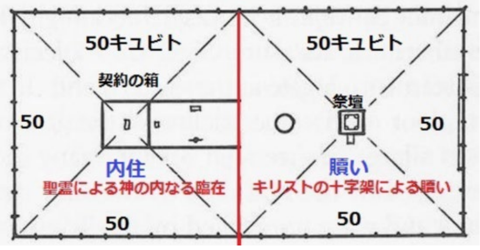
## 1. 受胎告知

●ここで注目したいのは、マリアと婚約していたヨセフに対して主の使いが夢の中で語ったことばです。

【新改訳 2017】マタイの福音書 1 章 20～23 節

20・・「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

●「救い」を意味する「イェシュア」と、「神が私たちとともにおられる」ことを意味する「インマヌエル」という名前はとても重要です。これは神の贖いと内住を啓示する名前だからです。このことは、出エジプトしたイスラエルに対して造るようにと命じられた「幕屋」(「ミシュカーン」מִשְׁכָּן)の構造にも表されています。




## 2. 救い主の誕生

【新改訳 2017】ルカの福音書 2 章 1～7 節

1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た。

2 これは、キリニウスがシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。

3 人々はみな登録のために、それぞれ自分の町に帰って行った。

4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアとともに登録するためであった。

6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

7 男子の初子を産んだ。・・

●住民登録が出された時代は、事実上、ローマによる平和(ラテン語で「パクス・ロマーナ」Pax Romana)が実現していました。人々は皇帝アウグストゥスこそすべての戦争を終わらせた「救い主」(「ソーテール」σωτὴρ)だと信じていましたが、折しも、住民登録の勅令が出された年に、もうひとりの「救い主」が「ダビデの町ベツレヘム」に誕生したのでした(ルカ 2:11、ミカ 5:2)。それがイェシュアです。

## 3. シメオンの預言

●幼子イェシュアを祝福したシメオンがいます。「聖霊が彼の上におられた(とどまっておられた)」、「聖霊によって告げられていた」・・その内容は「キリストを見るまでは:決して死を見ることはない」というものでした。「御霊に導かれて宮に入った」シメオン。そのシメオンが幼子を腕に抱いて見たものは何だったでしょうか。それは幼子の中にある「神の救いの計画の全貌」でした。「万民の前に備

えられた救い」、すなわち、「異邦人を照らす啓示の光」と「御民イスラエルの栄光」です。

## 4. エジプトからナザレへ

【新改訳 2017】マタイの福音書 2 章 15 節
ヘロデが死ぬまでそこ(エジプト)にいた。これは、主が預言者を通して、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と語られたことが成就するためであった。

●上記の預言は、イスラエルの歴史を「踏み直される」イェシュアが、イスラエルの民の出エジプトを真の意味で完成させるという啓示を含んでいます。この踏み直しの論理は、「最初のアダム」(第一の人)の失敗を踏み直す「最後のアダム」(第二の人) であるイェシュアをも預言しています。

## 5. 12 歳のイェシュア

【新改訳 2017】ルカの福音書 2 章 40 節
幼子は成長し、知恵に満ちてたくましくなり、神の恵みがその上にあった。

●40 節には、原文にある大切な語彙が抜け落ちています。ビザンチン・テキストには、「たくましくなり」(未完了形)という語彙に「プニューマ」(霊)が付けられています。つまり、継続的に「霊がたくましくなる」「霊が強化される」という意味があります。イェシュアは聖霊による産出であり、当然、成長とともに彼の内にある霊が強化されていったのです。

●イェシュアが恒例の過越の祭りに両親とともにエルサレムを訪れた時のことです。12 歳のイェシュアが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられる姿があります。教師たちと問答するのを見聞きしていた人たちはみな、イェシュアの知恵と答えに何度も驚いていた(未完了形)とあります。そのイェシュアが両親に向かって言われました。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか」。しかし両親には、イェシュアの語られたことばが理解できなかったとあります。ここに、イェシュアの霊的成長の姿を垣間見ることができます。

## 6. イェシュアの洗礼

●30 歳になったイェシュアがバプテスマのヨハネから洗礼を授けられます。そのときに語ったことばは以下の通りです。
【新改訳 2017】マタイの福音書 3 章 15 節
イエスは答えられた。「今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。」そこでヨハネは言われたとおりにした。

●「正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです」とはどういうことでしょう

か。私たちか受ける洗礼は「イエシュアと一体となること」を意味しますが、イエシュアの洗礼は「私たちを包括的に取り込むこと、つまり、「私たちと一体となること」を意味するのです。

【新改訳 2017】マタイの福音書 3 章 16～17 節
16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。
17 そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

●これはイザヤ 42 章 1～4 節「しもべの歌」の預言の成就です。その歌には「傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともなく」とあります。「傷んだ葦」も「くすぶる灯芯」も、主のことばを象徴しています。それをまっすぐにし、かつ照り輝かせるために、このしもべは遣わされるのです。そのしもべこそイエシュアです。その就任式が洗礼であり、天から神の御霊が鳩のように来られ、天から御父の声があったのです。それは御父のみこころを成し遂げる就任の声です。

## 7. 荒野の 40 日 40 夜

【新改訳 2017】マタイの福音書 4 章 1～2 節
1 それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。
2 そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた。

●ユダヤ人にとって断食は善行の一つでした。しかし断食の真意は「神のみことばを食べることに専心すること」です。イエシュアは公生涯の働きの前に、御霊に導かれて、荒野でみことばの武装をしたのです。それは、「御国の福音」を御父から受け取ってから宣教を開始するための武装でした。「40 日 40 夜」の「40」や「400」は試み(試練)の数です。と同時に、それは「神の御手に守られている」ことをも表します。「神の御手」の「ヤード・アドナイ」(יַד יהוה)のゲマトリアは「10+4+10+5+6+5」=40 です。

## 8. 御国の福音

【新改訳 2017】マタイの福音書 4 章 17 節
この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

●イエシュアの宣教は徹頭徹尾、御国の福音です。イエシュアはたとえという神の知恵によって御国のことを語りました。すべてのいやしの奇蹟は、御国が到来するときにどのようなことが起こるのかというデモンストレーションです。イエシュアの言動や周辺的な事柄のすべてにも御国の奥義が隠されています。
●天の御国(神の国)が「近づいた」とは、「すでに来ている、あなたがたのただ中にある」という面と「いまだ到着していない」という面、二つの現実を意味します。ヘブル語の「カーラヴ」(קָרַב)は、「すでに」と「いまだ」の両方の意味を兼ね備えている不思議な語彙です。

●私たちが神に立ち返ることで御国を受け継ぐことができるのは、イェシュアが神への「ささげもの」(「コルバーン」קָרְבָּן)となってくださったからです。このささげものは以下の五つのささげものです。①「全焼のささげ物」　②「穀物のささげ物」　③「交わりのいけにえ」　④「罪のきよめのささげ物」⑤「代償のささげ物」です。イェシュアが十字架上で語った「完了した」と「わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」は、この五つのささげ物となられたことを意味しています。

## 9. 受難と死と復活

●イェシュアの受難と死と復活は、「過越の祭り」と「初穂の祭り」に実現しました。
①木曜の夕～金曜の夕べ　十字架の死――過越の祭り
②金曜の夕～土曜の夕べ　安息日
③土曜の夕～日曜の夕べ　復活――初穂の祭り
（「週の初めの日」にイェシュアは復活されています）

●メシアは必ず「苦しみを受けてから、栄光が現わされる」ことが預言されていました。もしイェシュアが苦しみを受けなかったなら、イェシュアはメシアではなかったことを意味します。受肉と私たちを取り込む洗礼、受難と十字架の血による死、これらは「最後のアダム」であるイェシュアが「最初のアダム」を終わらせるために不可欠な出来事でした。そして三日目に最後のアダムが「いのちを与える御霊」となられたことで、人は神によって「新創造」されたのです。その出発点は「人の霊」からです。その新しくされた霊によって、新しい心と霊のからだへと造り変えられていくのです。

## 10. 息を吹きかけて

●「キリストにある新創造」は、復活の日の夕方から始まっています。

【新改訳 2017】ヨハネの福音書 20 章 19、22 節
19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。・・・・
22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。

●「息を吹きかけて」ということばは新約聖書でここ一回限りです。復活のイェシュアは多くの弟子たちに同時に、また繰り返し現れたことで、彼らの内側に聖霊が満たされた(「プレーロー」πληρόω)のです。これはヨハネの福音書 7 章 37～39 節の約束の成就です。

【新改訳 2017】ヨハネの福音書 7 章 37～39 節
37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。
「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。
38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るよう

になります。」
39 イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。
イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ下っていなかったのである。

●「御霊はまだ下っていなかった」の原文は「まだなかった」です。それがイエシュアの復活の日に成就しました。「成就する」という語彙は「プレーロー」(πληρόω)です。つまり、弟子たちが復活の日に息を吹きかけられて「聖霊を受けた」ときから、彼らの霊に聖霊が満たされるということが成就したのです。つまりイエシュアの復活の日の夕方、神の回復のわざが包括的になされたと言えるのです。

## 11. 40 日間の顕現

●多くの教会は、キリストの復活後の「40 日間の顕現」の重要性について教えていません。何故でしょうか。イエシュアが弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けよ」と言われたことで、彼らの霊の中に聖霊が満たされた(「プレーロー」πληρόω)ことを教えられていないからです。聖霊に満たされたのは使徒の働きの 2 章の時だと思い込まされているからです。

●なぜイエシュアが復活後 40 日にもわたって地上にとどまられたのでしょうか。40 日間の顕現の意義は、人の霊の中におられるキリストと顕現されるキリストが「相互内在・同時同存」であることを、弟子たちが徹底的に知るためです。キリストは人の霊の中におられると同時に、昇天して天の御座に着座されています。御座でも、人が圧倒的な勝利者となるようにとりなしの務めをしておられるのです。

●イエシュアは「いのちを与える御霊」として人の霊とミングリングすることで、私たちが神の子であることを証しします。その人の霊の中におられる御霊ご自身がことばにならないうめきをもって、神のみこころにしたがってとりなしをしています。その目的は、人を「御子のかたち(ツェレム)と同じ姿(デムート)に」造り変えるためです(ローマ 8:29)。

## 12. 昇天・着座

●イエシュアはその謙遜さのゆえに、すべての名にまさる名、すなわち「**イエシュアの御名**」を与えられました。復活されたイエシュアが昇天し、神の右の座においてなしている天における務めは、教会のかしらとしての主権的な務めです。それは神の大能によって、すべてのものをすべてのもので満たして「エックレーシア」(ἐκκλησία)を建て上げる務めです。私たちにあるものは、「イエシュアの御名」(「シェーム・イエシュア」)だけです。これだけが天を開く唯一の鍵なのです。

## 13. 聖霊によるバプテスマ

●教会(エックレーシア)はいつから始まったのでしょうか。それはイエシュアが復活された日に、弟子たちの内の聖霊の満たし(プレーロー)から始まっています。使徒の働き 1 章で、一つになって集まっていた

120 人は「死と復活によっていのちが与えられた人」たちの象徴です。「120 の奥義」は「死んで生きるという奥義」です。そして、使徒 2 章の五旬節のユダヤ人と使徒 11 章の異邦人に対する「聖霊によるバプテスマ」によって、教会は成立しました。上からの力としての聖霊の満たしのことを「ピンプレーミ」(πίμπλήμι)と言います。

①「プレーロー」(πληρόω)・・使徒 13 章 52 節

②「プレーレース」(πλήρης、プレーローの形容詞)　使徒 6 章 3,5 節、7 章 55 節、11 章 24 節

③「ピンプレーミ」(πίμπλήμι) 使徒 2 章 4 節、4 章 8, 31 節、9 章 17 節、13 章 9 節)

●「聖霊によるバプテスマ」という語彙は新約聖書では二箇所しかありません。しかもそれは一義的には教会に対する、力としての聖霊の賜物を言っています。

①【新改訳 2017】使徒　1 章 5 節

ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、**聖霊によるバプテスマ**を授けられるからです。」

②【新改訳 2017】使徒　11 章 16 節

私は主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは**聖霊によるバプテスマ**を授けられる』と言われたことばを思い起こしました。

## 14.　携挙・地上再臨

●だれがメシア王国に入るのでしょうか。

(1) 携挙された教会(メシアニック・ジューと異邦人からなる教会)〔御霊のからだ〕

(2) 患難時代に信仰を与えられながらも殉教する異邦人(=「数えきれないほどの大勢の群衆」黙示録 7:9～17)とイスラエル(=「男の子」、同 12:5, 11)。彼らもまた天に携え挙げられます。〔御霊のからだ〕
　※携え挙げられるのは教会だけではありません。

(3) 復活して御霊のからだを与えられる旧約の聖徒たち(イスラエル)〔御霊のからだ〕

(4) イスラエルの残りの者(患難時代の終わりに聖霊によってイェシュアをメシアと信じるユダヤ人)

(5) 大患難に遭っているイスラエル(=最も小さい者たち)を助けた異邦人たち(羊にたとえられる者たち)。

## ベアハリート

●2022 年の「セレブレイト・スッコート」(10/9～16)でなされた 14 回分の創世記第 1 章の講義とともに、14 のイェシュアの贖いの出来事を示す「アラカルト(一品料理)」を提供できたことを主に感謝しています。イェシュアが死んで復活したことだけでなく、14 の出来事が指し示す神のご計画の全貌を正しく知るためにも、これら 14 のアラカルトを「**すべて食べること**」は成熟したクリスチャンとなるために必要不可欠です。そうするなら、ダビデのように「私は乏しいことがありません」(「ロー・エフサール」לֹא אֶחְסָר)と主に感謝するに違いありません。

2022.10.16 Celebrate Sukkot 最終日